

# 第1章 人口・人口動態および世帯の状況

## 第1節 人口

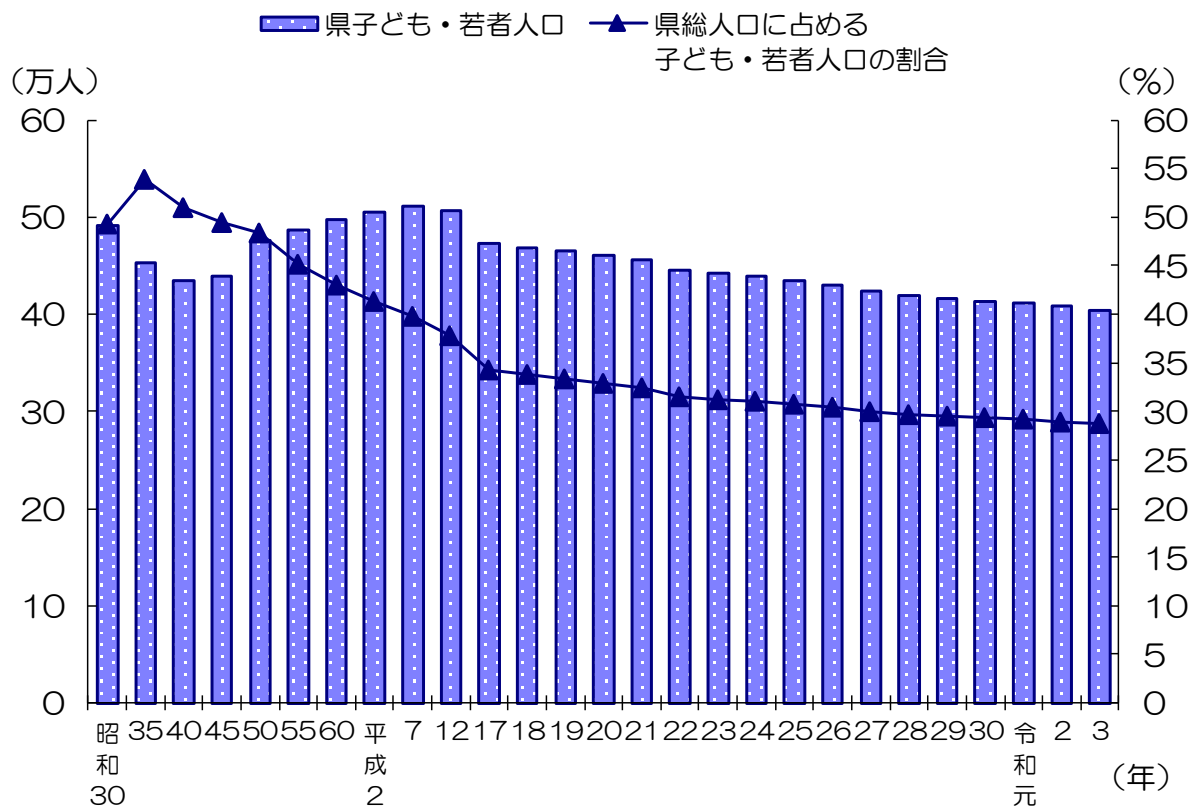
### 1. 子ども・若者人口の現状と推移

令和3年(2021年)10月1日現在の『滋賀県推計人口年報』によれば、本県の総人口は1,409,157人で、このうち子ども・若者(0～29歳)の人口は404,013人で、総人口の28.7%を占めています。

男女別にみると、男子は210,304人、女子は193,709人で、男子が16,595人上回っており、性比については、女子100人に対して男子は108.6人となっています。

県総人口に占める子ども・若者人口の割合の推移をみると、昭和35年には53.8%と半数以上を占めていましたが、その後は出生児数の減少により低下の一途をたどり、令和3年は28.7%と前年に比べてさらに0.2ポイント低くなっています。

第1-1-1図 子ども・若者の人口と総人口に占める割合の推移



(資料)平成18、19、20、21、23、24、25、26、28、29、30、31、令和2、3年は県統計課「滋賀県推計人口年報」より、他は総務省統計局「国勢調査」より

## 2. 子ども・若者人口の市町分布

各市町における子ども・若者人口の割合をみると、滋賀県平均28.7%を上回っているのは、市部では、彦根市29.1%、草津市32.6%、守山市31.1%、栗東市33.4%の4市となっており、郡部では、愛荘町32.5%、豊郷町29.1%の2町となっています。

第1-1-2表 市町別子ども・若者人口(0～29歳)

(令和3年10月1日現在)

	総数	子ども・若者人口	子ども・若者人口				総人口のうち 子ども・若者 人口の占める 割合	県0～29歳 人口に対する 市町0～29歳 人口の割合
			0～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳		
県計	1,409,157	404,013	189,718	70,281	73,919	70,095	28.7	100.0
大津市	342,584	95,095	45,238	16,722	17,311	15,824	27.8	23.5
彦根市	112,782	32,780	14,548	5,538	6,322	6,372	29.1	8.1
長浜市	113,079	30,256	14,194	5,740	5,832	4,490	26.8	7.5
近江八幡市	81,456	22,651	11,219	3,843	3,777	3,812	27.8	5.6
草津市	144,543	47,062	20,092	6,725	8,711	11,534	32.6	11.6
守山市	83,759	26,053	13,413	4,633	4,143	3,864	31.1	6.4
栗東市	69,557	23,205	11,206	4,047	3,921	4,031	33.4	5.7
甲賀市	88,087	24,014	11,088	4,546	4,653	3,727	27.3	5.9
野洲市	49,807	14,193	6,897	2,452	2,455	2,389	28.5	3.5
湖南市	54,104	15,486	7,062	2,629	3,038	2,757	28.6	3.8
高島市	45,789	10,378	4,891	2,064	2,013	1,410	22.7	2.6
東近江市	112,117	31,832	14,927	5,615	6,056	5,234	28.4	7.9
米原市	37,099	9,906	4,774	1,840	1,872	1,420	26.7	2.5
日野町	20,846	5,397	2,540	969	1,010	878	25.9	1.3
竜王町	11,787	3,356	1,490	669	699	498	28.5	0.8
愛荘町	20,943	6,799	3,355	1,157	1,193	1,094	32.5	1.7
豊郷町	7,300	2,127	1,048	409	346	324	29.1	0.5
甲良町	6,318	1,557	712	335	300	210	24.6	0.4
多賀町	7,200	1,866	1,024	348	267	227	25.9	0.5

(資料)県統計課「滋賀県人口年報」より

## 第2節 人口動態

### 1. 出生

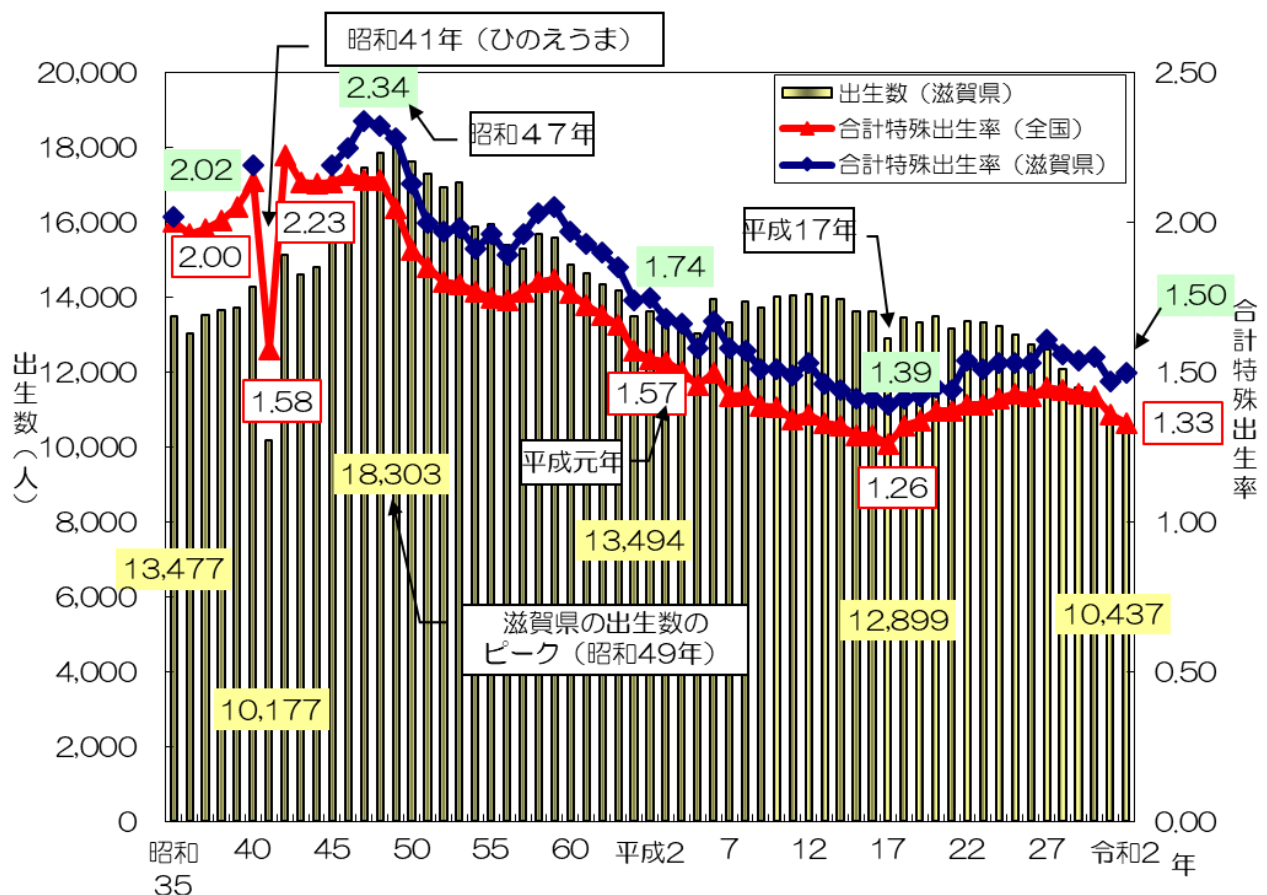
本県の出生率(人口千対)は、昭和23年に31.3の高率を記録しましたが、その後昭和32年まで急激に低下し、昭和36年には15.4という低率になりました。

昭和37年から昭和49年までは、昭和41年のひのえうまの変動を除き、年々上昇傾向を示しましたが、昭和50年以降は再び低下をはじめました。平成4年以降は増減を繰り返し、平成17年まで緩やかな減少傾向となっています。平成18年以降は増減を繰り返していましたが、平成24年以降は減少し続けており、令和元年は7.7、令和2年は更に0.1ポイント下回り、これまでで最も低い7.6となっています。

本県と全国を比較してみますと、本県は昭和48年まで全国値を下回る出生率でしたが、昭和49年からは全国値を上回る率を示しており、令和2年には0.8ポイント高くなっています。

また、合計特殊出生率は、昭和47年に2.34の高率を記録しましたが、その後は減少傾向となり、昭和60年から低下をはじめました。平成7年から平成12年までは、1.50前後で推移していましたが、平成17年には1.39と過去最低となりました。その後、平成18年以降は上昇傾向でしたが、平成28年以降減少し、令和2年は1.50となっています。なお、全国との比較では、本県は常に全国値を上回る率を示し、令和2年には0.17ポイント高くなっています。

第1-2-1図 出生数、合計特殊出生率の推移

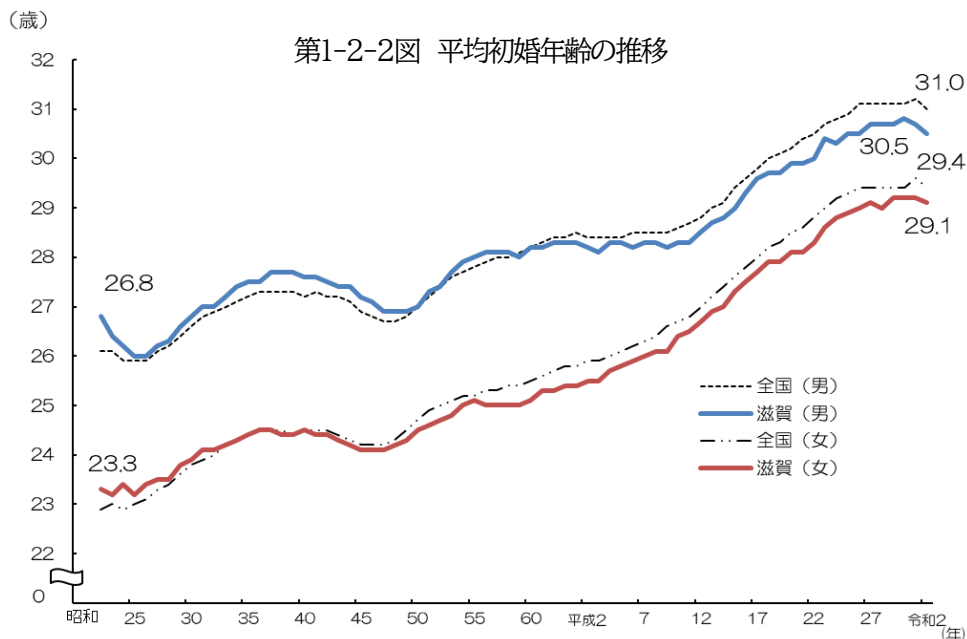


(資料)「令和2年人口動態統計」厚生労働省大臣官房統計情報部より

## 2. 婚姻

本県の平均初婚年齢は、昭和 35 年頃までは上昇傾向にありましたが、昭和 40 年頃をピークに低下したものの昭和 50 年頃からは再び上昇し、令和2年の平均初婚年齢は夫 30.5歳、妻 29.1 歳となっています。全国と比べると、夫は 0.5歳、妻は 0.3歳下回っています。

また、婚姻率(人口千対)をみますと、戦後直後の昭和 23 年には 11.6 と高率を示し、また、昭和 45 年から昭和 50 年にかけて戦後第2の結婚ブームを迎え昭和 47 年に 9.7 を示した後、急激に低下しました。昭和 62 年には婚姻率が 5.5 となりましたが、平成 6 年には 6 を超え平成 12 年には 6.5 まで上昇しました。その後低下傾向にあり、令和2年は 4.3 となっています。



(資料)「令和2年人口動態統計」厚生労働省大臣官房統計情報部より

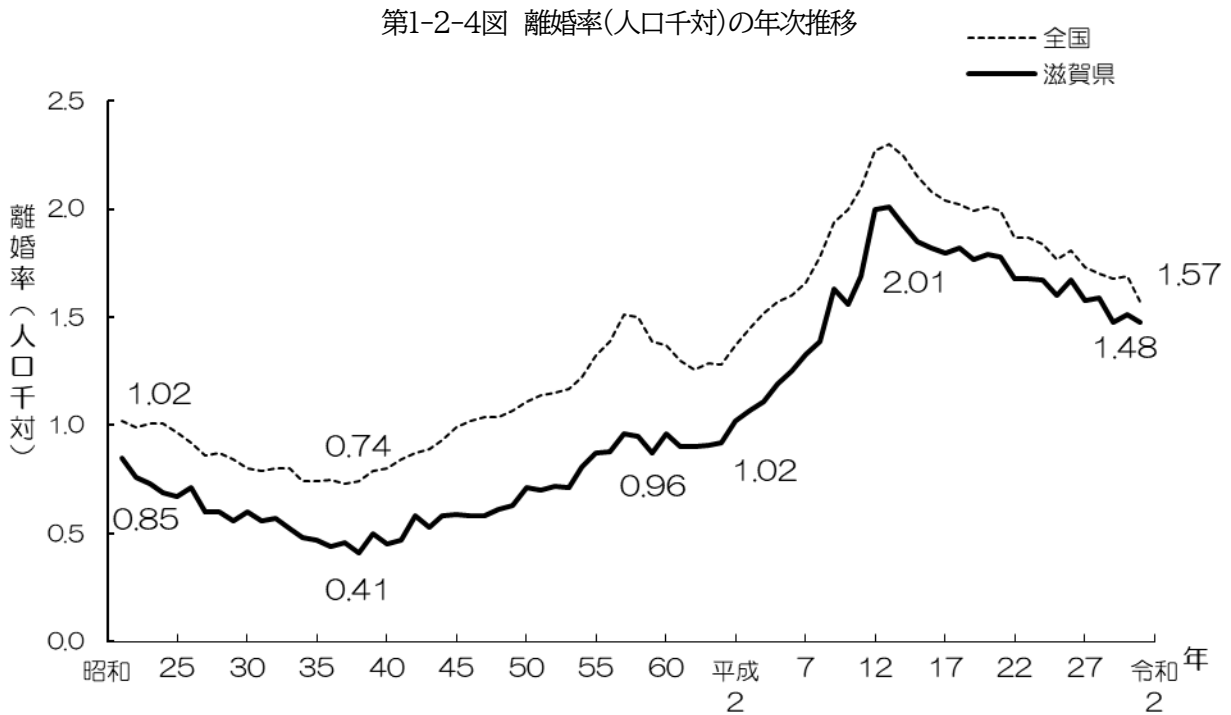


(資料)「令和2年人口動態統計」厚生労働省大臣官房統計情報部より

### 3. 離婚

本県の離婚率(人口千対)は、昭和30年代後半までは減少傾向を示していました。その後、昭和40年代になり上昇傾向に転じ、昭和58年に0.96となり、その後横ばいとなりました。しかし、平成3年に1.0を超え、これ以降、再び上昇に転じ、平成14年には2.01となりました。その後、減少傾向となっています。令和2年は、前年より0.03ポイント低下し1.48となっています。

なお、全国における離婚の際に子どもを引き取っている割合は、令和2年で母親が84.7%、父親が11.8%、父母がそれぞれ分け合っている場合が3.5%となっています。



(資料)「令和2年人口動態統計」厚生労働省大臣官房統計情報部より

## 4. 死亡

令和2年の本県の子ども・若者(0～29歳)の死亡状況をみると、死亡者数は102人(前年より5人増)でした。県全体死亡者数13,039人(前年より182人減)に対する割合は0.78%で、死亡率(子ども・若者人口千対)は0.26となっています。5歳階級別年齢層では、乳幼児期(0～4歳)の死亡者数は27人(うち0歳は19人)、構成割合は0.21%と、子ども・若者の死亡の中では最も高い率となっています。

また、死因についてみると、0歳では「先天奇形及び染色体異常」が最も多く、次いで「周産期に発生した病態」となっています。1歳～14歳では、「悪性新生物」「不慮の事故」「自殺」がそれぞれ3人となっています。また、15～19歳では「不慮の事故」が最も多く、20～24歳、25～29歳ではともに「自殺」が最も多くなっています。

第1-2-5表 令和2年死因別死亡数(年齢階級別)

区 分	0歳		1～14歳		15～19歳		20～24歳		25～29歳	
	死者数 (人)	割合 (%)	死者数 (人)	割合 (%)	死者数 (人)	割合 (%)	死者数 (人)	割合 (%)	死者数 (人)	割合 (%)
悪性新生物	0	0.0	3	16.7	1	7.1	2	6.9	3	13.6
神経系の疾患	0	0.0	1	5.6	0	0.0	1	3.4	2	9.1
心疾患	0	0.0	2	11.1	1	7.1	1	3.4	1	4.5
周産期に発生した病態	5	26.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
先天奇形及び染色体異常	6	31.6	2	11.1	1	7.1	1	3.4	0	0.0
乳幼児突然死症候群	2	10.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不慮の事故	2	10.5	3	16.7	6	42.9	6	20.7	2	9.1
自殺	0	0.0	3	16.7	5	35.7	16	55.2	14	63.6
その他	4	21.1	4	22.2	0	0.0	2	6.9	0	0.0
計	19	100.0	18	100.0	14	100.0	29	100.0	22	100.0

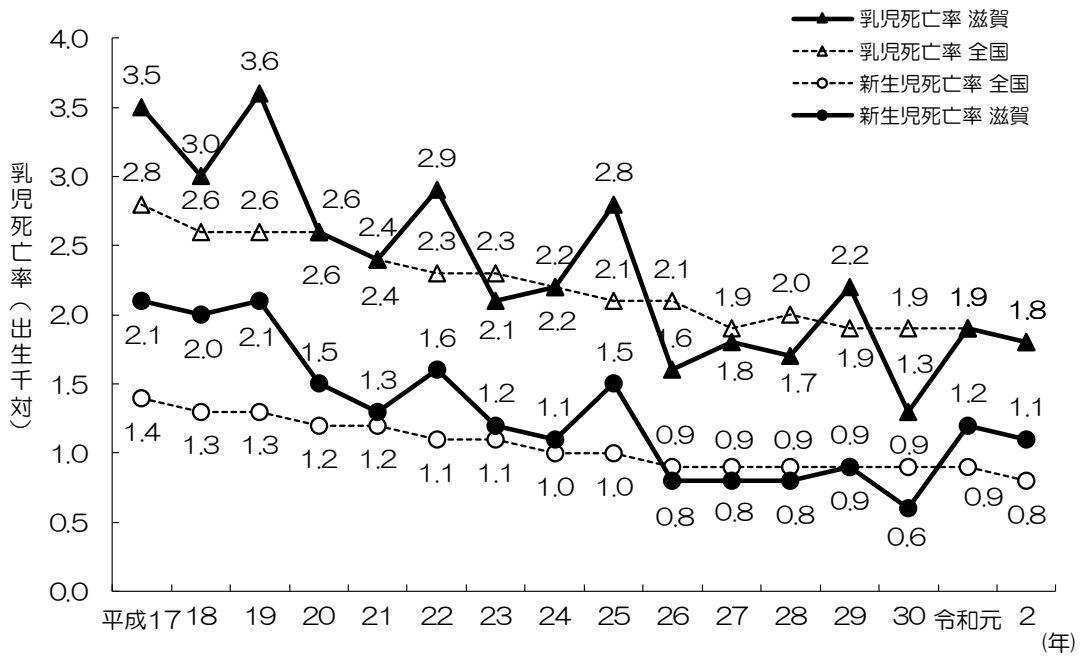
(資料)「令和2年人口動態統計」厚生労働省大臣官房統計情報部より

本県の乳児死亡率(出生千対)は、昭和15年頃は100を超えていましたが、急激に低下し、昭和52年に10を割り、その後緩やかな低下傾向となっています。全国と比較すると、平成19年まで全国値を上回っていましたが、平成20年、平成21年に低下し、全国値とほぼ同率になりました。それ以降、平成22年、平成25年、平成29年は、全国値を上回りましたが、近年は、全国値とほぼ同率か下回っている状況です。

令和2年の乳児死亡数は19人で、令和元年(20人)より1人減少し、乳児死亡率は1.8で、令和元年(1.9)を下回りました。うち、新生児死亡数は11人で、新生児死亡率は1.1となっています。

本県の周産期死亡率(出産千対)は、昭和55年には18.7でしたが、平成2年には8.8になり、近年は4前後で推移しています。令和2年は周産期死亡数28人(うち早期新生児死亡数8人)で、周産期死亡率は全国を0.5ポイント下回り2.7でした。

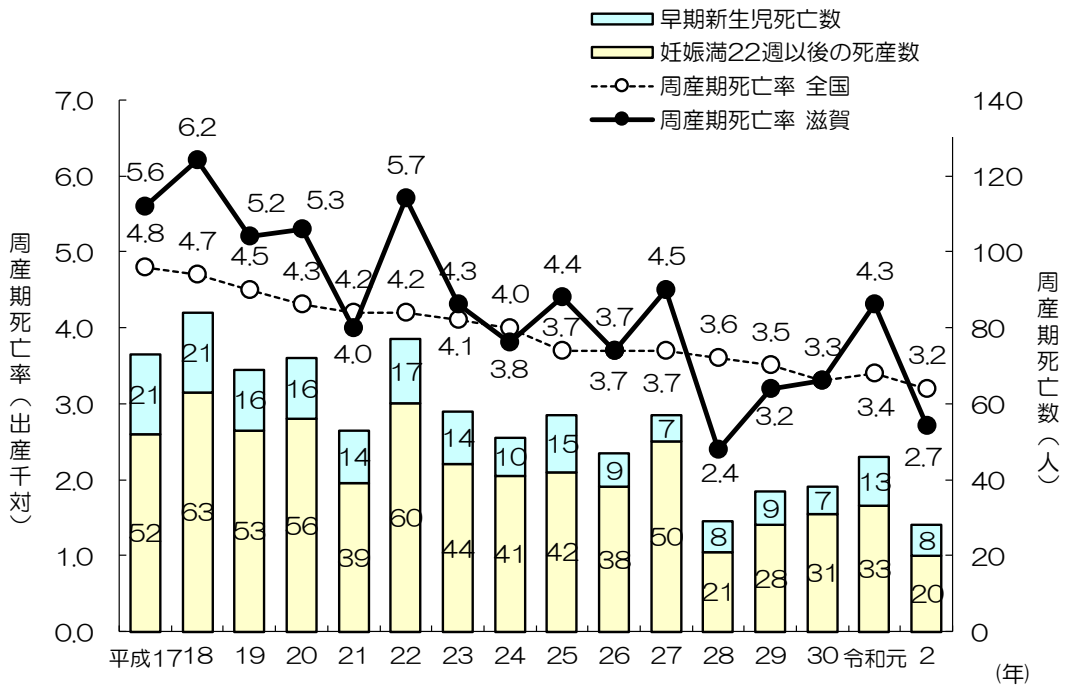
第1-2-6図 乳児死亡率、新生児死亡率の推移



(資料)「令和2年人口動態統計」厚生労働省大臣官房統計情報部より

乳児死亡： 生後1年未満の死亡  
 乳児死亡率： 乳児死亡数を出生数で割ったもの  
 新生児死亡： 生後4週間未満の死亡  
 新生児死亡率： 新生児死亡数を出生数で割ったもの  
 早期新生児死亡： 生後1週未満の死亡

第1-2-7図 周産期死亡率の推移

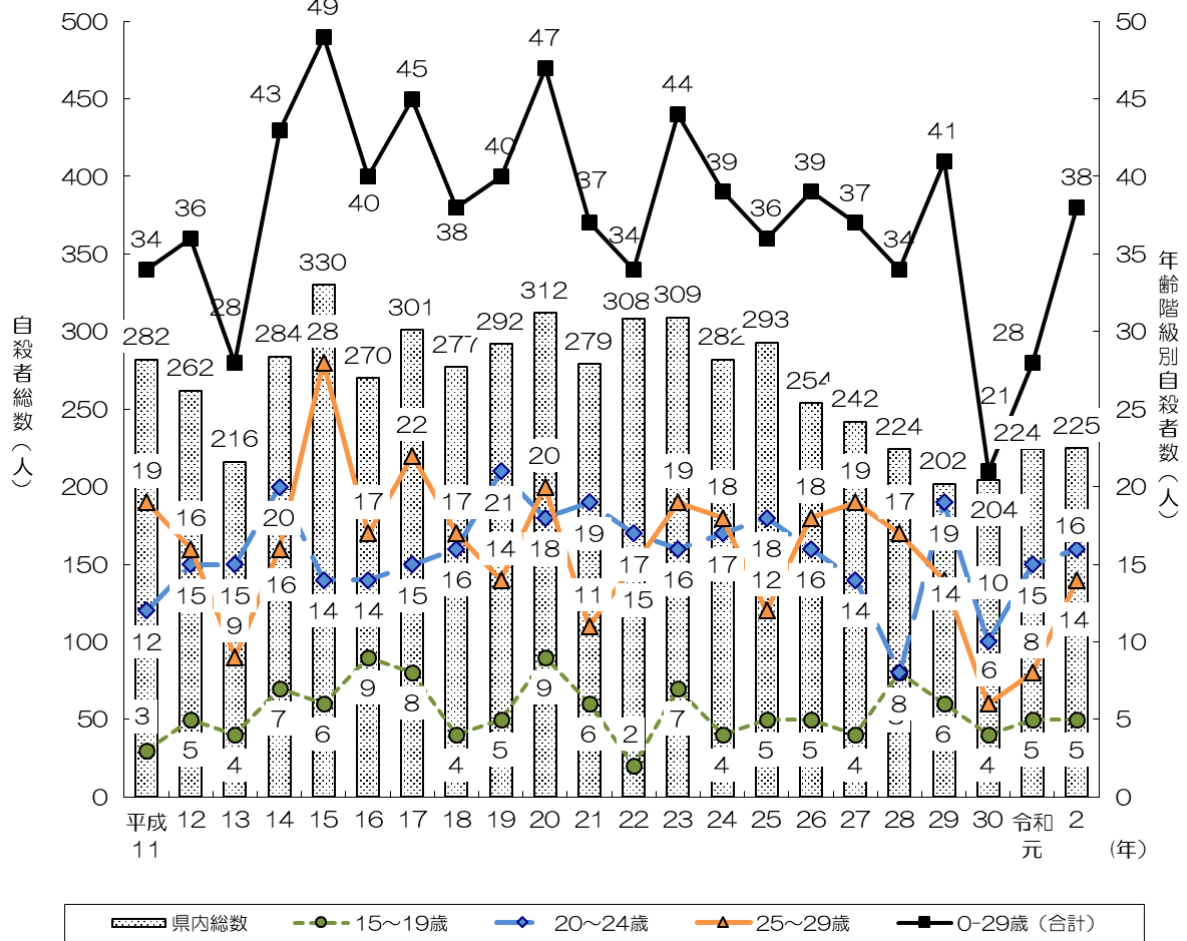


(資料)「令和2年人口動態統計」厚生労働省大臣官房統計情報部より

周産期死亡： 妊娠満22週以後の死産+生後1週未満の早期新生児死亡  
 周産期死亡率： 周産期死亡数を出生数(出生数+妊娠満22週以後の後期死産数)で割ったもの  
 早期新生児死亡率： 出生数で割ったもの  
 妊娠満22週以後の死産率： 出生数で割ったもの

本県の自殺死亡者数は、平成3年頃から増え、平成15年に300人を超え、その後300人前後で推移していましたが、平成24年以降は200人台で推移しています。また、子ども・若者(0～29歳)の自殺死亡者数は平成14年に40人を超え、その後40人前後で推移していましたが、平成30年は21人に減少しました。令和2年の自殺死亡者数は225人で、うち子ども・若者は38人(前年より10人増)でした。

第1-2-8図 子ども・若者の自殺者数の推移



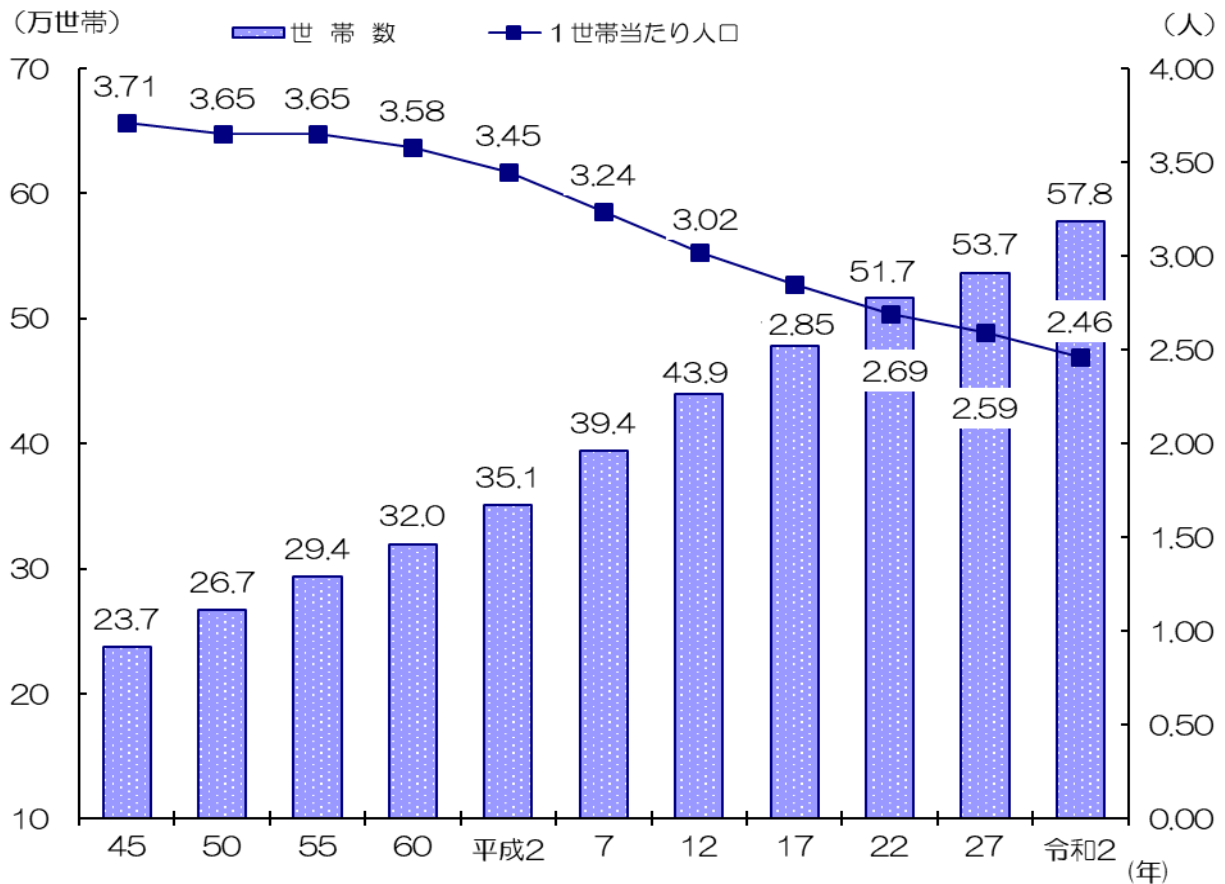
(資料)「令和2年人口動態統計」厚生労働省大臣官房統計情報部より



### 第3節 世帯

令和2年(2022年)10月1日現在の本県の推計世帯数は577,662世帯で、1世帯当たりの人口は2.46人となっています。世帯数は一貫して増加しているのに対し、1世帯当たりの人口は減少し続けており、核家族化などにより世帯規模の縮小傾向が続いています。

第1-3-1図 世帯数および1世帯当たり人口の推移



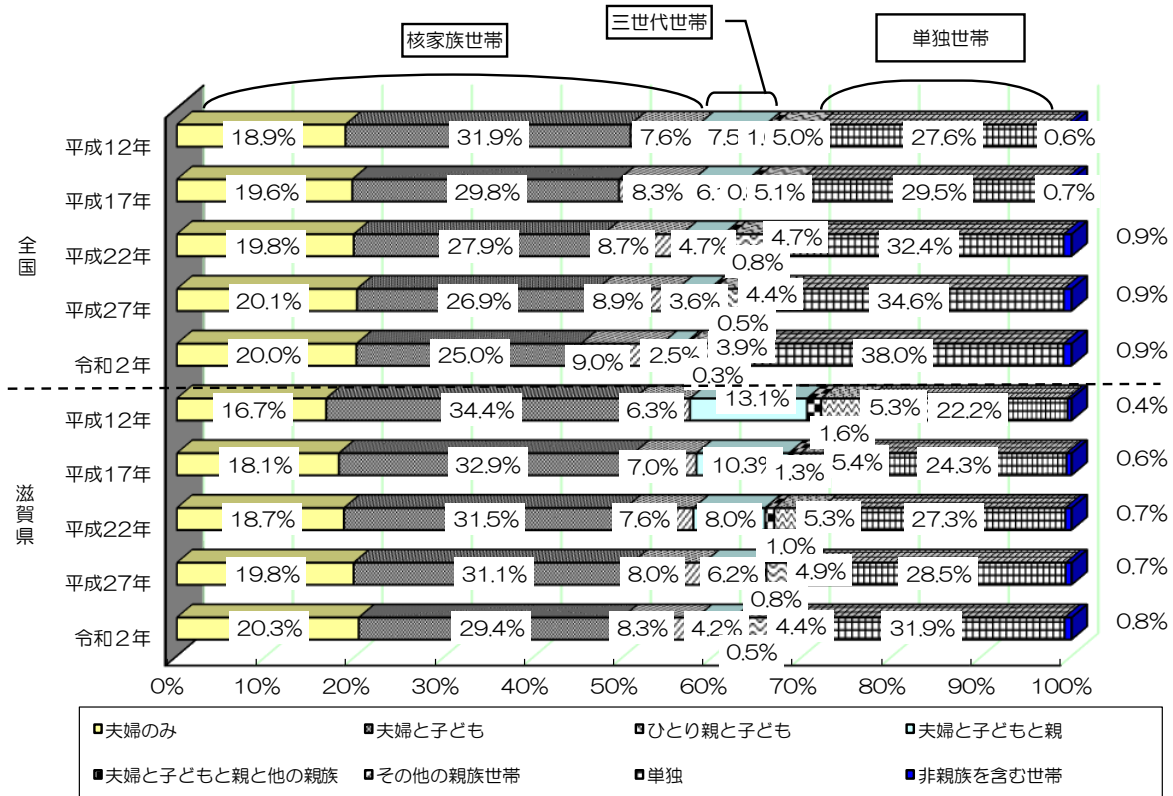
(注)昭和55年、60年、平成2、7、12、17、22、27年、令和2年の世帯数は県推計による。

(資料)総務省統計局「国勢調査報告」より

令和2年の本県の一般世帯を家族類型別にみると、「親族のみ世帯」が382,630世帯で、一般世帯総数の67.1%を占め、「単独世帯」が182,011世帯(31.9%)、「非親族を含む世帯」4,419世帯(0.8%)となっています。また、「親族のみ世帯」のうち「核家族世帯」は、330,640世帯で一般世帯総数の58.0%を占め、「核家族以外の世帯」は51,990世帯(9.1%)となっています。

全国と比べると、「単独世帯」の割合が低く、「親族世帯」の割合が高くなっています。「親族世帯」のうち平成27年から5年間に「核家族世帯」は15,257世帯増加し330,640世帯となり、構成比は0.9ポイント増加しました。そのうち、「夫婦のみの世帯」は0.5ポイント、「親1人と子供からなる世帯」は0.3ポイント構成比にして増加していますが、「夫婦と子供からなる世帯」は構成比にして1.7ポイント減少しています。

第1-3-2図 一般世帯の家族類型別世帯数



(資料)総務省統計局「国勢調査」より

各年10月1日現在 (単位:世帯、%)

区分	一般世帯数	単独世帯	親族のみ世帯							核家族以外の世帯	非親族を含む世帯
			核家族世帯	三世帯世帯			単独	非親族を含む世帯			
				夫婦のみ	夫婦と子ども	ひとり親と子ども					
世帯数	平成12年	439,370	97,644	339,771	252,096	73,421	151,175	27,500	87,675	1,955	
	滋賀県	17	477,645	116,197	358,704	277,441	86,575	157,378	33,488	81,263	2,744
	22	516,431	140,774	372,059	298,196	96,585	162,419	39,192	73,863	3,598	
	27	535,273	152,713	378,961	315,383	105,840	166,631	42,912	63,578	3,599	
	令和2年	570,529	182,011	382,630	330,640	115,817	167,640	47,183	51,990	4,419	
構成比	平成12年	100.0	22.2	77.3	57.4	16.7	34.4	6.3	20.0	0.4	
	滋賀県	17	100.0	24.3	75.1	58.1	18.1	32.9	7.0	0.6	
	22	100.0	27.3	72.0	57.7	18.7	31.5	7.6	14.3	0.7	
	27	100.0	28.5	70.8	58.9	19.8	31.1	8.0	11.9	0.7	
	令和2年	99.7	31.9	67.1	58.0	20.3	29.4	8.3	9.1	0.8	
全国	平成12年	100.0	27.6	71.8	58.3	18.9	31.9	7.6	13.5	0.6	
	17	100.0	29.5	69.8	57.7	19.6	29.8	8.3	12.1	0.7	
	22	99.8	32.4	66.6	56.3	19.8	27.9	8.7	10.2	0.9	
	27	99.7	34.5	64.3	55.8	20.1	26.8	8.9	8.6	0.9	
	令和2年	99.7	38.0	60.8	54.1	20.0	25.0	9.0	6.8	0.9	

\*平成22、27、令和2年の一般世帯数には「家族類型不詳」を含む。但し、構成比は「家族類型不詳」を除いて算出している。

(資料)総務省統計局「国勢調査」より

平成30年9月の滋賀県のひとり親家庭等の状況については、母子家庭は13,387 世帯、父子家庭は1,173 世帯、ひとり暮らし寡婦は248 世帯となっています。母子家庭は昭和60 年と比べると2倍以上に増加しています。

第1-3-3図 ひとり親家庭等の世帯数の推移

